

## 心配に殺される前に、心配を殺す Part 3

ピリピ人への手紙4章8節から9節

- Pastor J.D.Farag 2019年3月17日(日) のメッセージ -

<https://youtu.be/Jr22qmW45yk>

それでは、今日はピリピ人への手紙4章8節から9節です。聖書箇所を開いた方は、できればお立ちになって、私が読むのについてきてください。難しければ、座ったままで大丈夫です。

使徒パウロは、聖霊によってピリピの教会へ、こう書いています。8節から。

最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい(8節)。あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたと共にいてくださいます。(9節) (ピリピ4章8節から9節)

共に祈りましょう。

愛なる天のお父さま。今このとき、私たちの思いを静ませ、心をあなたに向けさせ、あなたと、あなたが今日、用意してくださっているものに集中させてください。この”電子音” (キーンという音) を聞き、あなたが賛美の間に私の心に語ってくださったことの確信となります。それは、サタンは、あなたの教会である私たちに、今日、聖霊が語ることを聞かせたくないのです。

私たちは今日、最前線のことに触れようとしています。つまり、敵が私たちの人生を攻撃することに関して、これを止めるためなら、サタンはどんなことでもします。しかし、主よ、あなたは私たちの内におられ、この世の敵よりも偉大な方です。ですから主よ。敵を追い出し、どんな方法でも彼が、今日の私たちの御言葉を聞く時間を減ぼし、混乱させることを許さないでください。

イエスの御名によって、アーメン。

どうぞ、お座りください。いつも、このようなことが起こる時には、主がなにかをしようとされているのが分かります。実は、土曜日から始まったのです。私がメッセージの準備をしている時に、私が学んでいて核心に入ろうとしていると、敵が攻撃をしてくるのです。「おお、主よ」と私はとても興奮し、主が用意してくださっていることを見るのが楽しみになります。

私のタイトルが、芝居がかったように聞こえないように願いますが、今回は、二週間前から始まったシリーズの第3回目です。タイトルは、『心配に殺される前に、心配を殺す Part 3』。私がこのタイトルを選んだ理由は、心配は、文字通り、私たちを殺し得るという事実があるからです。心配は、身体的に私たちに影響を与えます。

ある調査で、このようなことが分かっています。このパーセンテージに注目してください。現在の精神的、身体的疾患の75~98%は、私たちが考える心配や悩みが原因である。理由があります。心配は、私たちの身体に身体的ストレスをもたらします。それは次々と私たちの免疫システムにストレスを与え、重い負担となってゆき、私たちの身体や思いを病気にかかりやすくさせ、弱くさせるのです。もっとよい言い方があればよいのですが、それは分解して、私たちの免疫システムを破壊するのです。なぜなら、これは神が私たちに創られた姿ではないから。不安、心配は私たちを殺し、恐れは、文字通り私たちを殺し得るのです。

今日の聖書箇所に入ります。使徒パウロが、特に考えるべき事らについて8つのリストをあげています。その理由は、私たちの思いを新しくし、作り変えるためです。その際に、私たちは聖書的な治療、いうならば不安や恐れに対する聖書的な処方箋が、ここにあるのです。私たちがそうすべきこととは何か、なぜ、そうすべきなのか、そして、さらに大切なのは、実際にどうすればできるのか？

私たちが理解すべき重要なことは、神が私たちに何かをするようにと命じる時には、いつでも彼は、私たちにそれができるように、神が命じていることを行う力を与えてくださるということです。彼は、そうしないといけないのです。そうしなければ、彼は、私たちの不従順さと関係してしまうからです。

このことを少し説明する必要がありますね。

神は、可能になる材料もなしに、決して私たちに何かを命じたり、召したり、強く勧めることはしないのです。そうでなければ残酷ですよ？考えてみてください。つまり、私たちはここで、ピリピ書の中で使徒パウロによって命じられているのです。これは命令ですよ。命令。原文では、こう読めます。

「私はあなたに命じる。何事についても思い悩むな。ささいなこともすべて！」

これは二重否定です。これは命令です。「私はあなたに命じる。心配するな！」「はい、わかりました！私は心配するのをやめます。思い出させてくれて、ありがとうございます」どうやって？！どうやって私は心配することを止めることができるのか？信じてください、私は試しました。私が試したすべてのことは、効果がありませんでした。

神は言われます。「わたしはあなたに、何をするべきか、なぜそれをするべきなのかを教える。そして、その方法も与える。そうすれば、あなたにはそれができるから。」

ピリピ4章8節、9節を、神に感謝します。特に8節です。神はこの節、この章を、何年も私の人生の中で力強い方法で使われました。私の心配しやすい性質は、みなさんにかなり率直にオープンに話してきましたが、この私の気質は、私の育てられ方に関係していて、私の両親は、すべてのことを心配していたのです。彼らは、すべてのことについてどのように対処するか私の規範となり、彼らは心配し、ストレスを抱え、それはふたりの身体に影響を与えていました。私の父は心臓発作で亡くなり、私の母は腎不全でした。つまり私は、直接見ていたのです。不安、心配、恐れが荒廃させ、致命的な影響を与えるのを、直接目撃したのです。

私たちは、”何をするようにと命じられているのか”ということから始めたいと思います。それは、私たちが見た2つ前の節で、パウロがこう言っています。

何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、（ピリピ4章6節 / 新共同訳）

これが私たちに命じられていることです。そして、これが命じられている理由は、私たちがすべてのことを祈り、何事も神に感謝する時に、私たちは何の心配もしないからです。もう一度、言わせてください。逆にすると理解できるでしょう。私たちは、すべてのことを祈り、あらゆることを神に感謝し、何事も心配しない代わりに、私たちはすべてのことを心配し、あらゆることを神に感謝せず、そして、すべてのことを祈らないのです。

取り急ぎ、これについて指摘させてください。ここは、神の言葉の中の条件付きの約束が書かれているところです。つまり、私たちがすることに基づいて、神が応え、私たちに与えると約束したものを与えてくださるのです。それは、ここの箇所ではすべての人の理解を越えた、人のすべての考えを越える平安です。これ

が約束です。しかし、これは条件付きです。「もし、私がこれらをするなら…」では、それは何のことで  
すか？すべてのことを祈り、感謝すべきだと考えるすべてのことを神に感謝する。おお、これは長いリス  
トになりませんか？

これよりもさらに明確だと思ふことがあります。少し時間を取って詳しく説明をすると、先週、これにつ  
いて少し話しましたが、私は信じていて、自分自身の人生でこれを経験しています。私の不安、心配、恐れが  
あった時に。あなたがこれについて考える時、たくさんの感謝すべきことがあることに気がつくでしょう。  
とくに、過去に神はとても忠実で、あなたをある状況から導き出されたということ。その状況とは、大き  
な不安やストレスの原因となっているもので、神は忠実で、あなたを導き出され、困難を切り抜けさせた。  
神は決してあなたを見捨てない。

そして、あなたがそのことについて考え、神に感謝する。そうすることで、とても大事なことを思い出させ  
てくれるのです。もし神が、私にあれを乗り越えさせたのなら、神はこれも乗り越えさせてくださると。神  
は、昨日も今日も永遠に変わらない、同じ神です。彼は決して私から離れず、私を見捨てません。主に感謝  
します。本当に、本当に感謝します。

そして、祈る過程の中で神に感謝していくと何が起こるのかということ、変化が起こり始めます。先週、これ  
について少し話しましたが、それは、私たち自身を変えるのです。そして突然、私たちは、ある人が「臭い  
考え」と呼ぶものが、もはやなくなります。そのためには、考えていることを精査する必要があります。

ある年配の上司が、いつも私にこう言っていました。「きみは、臭い考え方だ！」—「どうすればいい  
の？」—「きみは考え方を精査しないといけない」—「はい…」これが、私たちに命じられていることなの  
です。そしてそこから、「なぜ、これが命じられているのか？」簡単に言うと、私たちの思考力は、とても  
強く、それは実際に、私たちがどんな人になるのか、何者になるのかを決定づけるのです。

では、別の言い方をしてみましょう。私たちの思考力は、とても強く、実際に私たちの運命、私たちの宿命  
を決定づけるのです。私たちは、自分が考える者になる。私たちが考えることは、私たちがどんな人になる  
のかを決める。箴言23章7節には、

彼はその欲望が示すとおりの人間だ。（箴言23章7節 / 新共同訳）

こう言えると思います。「私たちは、私たちが考えるそのままの人である」すべては、思考の戦場の中で始  
まっていて、それが問題なのです。サタンは、これを知っています。しかし、彼は私たちには知ってほしく  
ない。そして、もし私たちがそれを知ったなら、彼は忘れさせようとして、私たちの思考を攻撃してくるの  
です。彼は”思考”へ働きかけます。なぜなら、彼は思考にどれほどの力があるのかを知っているから。

彼は知っています。もし、彼が思考の中で私たちを捕らえることができたなら、私たちを捕らえることがで  
きると。みなさん、ストップウォッチをスタートさせて…。ああ、古いやり方ですね。スマホを出して、み  
なさん、ストップウォッチのアプリを起動させて…。ただ、時間の問題です。そこ（思考）から始まります  
から。

有名なラルフ・ウォルド・エマーソンが、このように言いました。

「考えを植えなさい。そうすれば行動を刈り取る」  
「行動を植えなさい。そうすれば習慣を刈り取る」  
「習慣を植えなさい。そうすれば性格を刈り取る」  
「性格を植えなさい。そうすれば運命を刈り取る」

クリスチャンとして生きる時に、私達の思考が重要である事を、聖書の中で多く語られているのは、この為です。ですから、「戦場は思考の中にある」と知ることは、とても重要な事です。これが「なぜ」です。これが命令の理由です。なぜなら、神は私たちをととても愛していて、敵が仕掛ける思考への攻撃の餌食になってほしくないのです。神は、それが私たちに何をもちたらすのかを知っているからです。

ところで、神のすべての命令は、この理由です。ある人が、十戒/Ten commandmentsのことを、こう見るべきだと言っていました。「優しい戒め/tender commandments」「～をしてはいけない。なぜなら、わたしはあなたを愛しているから。わたしの命令に背くことによって、わたしは不必要にあなたに苦しんでほしくない」

それは、こんな感じではありません。「これをしてはいけないと命じる！なぜなら、わたしは神で、わたしがこう言うのだ！」違います。もっと、こんな感じです。

「心配してはいけない。だって、心配はあなたを痛めつけるから」  
「姦淫してはいけない。だって、姦淫はあなたを痛めつけるから」

これは、あなたが出せる限りの、神の命令のすべてにおいて言えることです。優しく、愛にあふれる天の父。私たちをととても愛している方。彼は、私たちを助け出そうとしているのです。私たちの不従順が私たちの人生にもたらす破壊や損傷から。「心配」の事例のように。

ここから、「どのようにして」に移ります。私たちが聖なる言葉を行うためには、私たちを強める聖霊の方法を知らなければなりません。私がかつても残念に思うのは、クリスチャンが自分の力でクリスチャン人生を生きようとする事です。聖い人生を生きる唯一の方法は、聖霊によって生きることです。聖霊は私たちの内に住み、私たちを強め、聖い人生を生きることを可能にし、従順に生きることを可能にするのです。それが、聖い人生を生きるために私たちを強める聖霊のやり方なのです。これが、みなさんとの残りの時間で私が見てゆきたいことなのです。

4つの「方法」を見てゆきたいと思います。「心配に殺される前に、心配を殺す」に関する4つの方法です。特に、どのようにして、私たちが恐れ、不安、心配から勝利できるのか、そして…。

ところで、「平和である神からの平安」。これは何も言葉遊びではありませんよ。7節に注目してください。パウロはこう言っているのです。「約束とは、すべてのことを祈り、あらゆることを感謝し、なにも心配をしない。なぜなら、神の平安が…」平和の神からの平安です。「あなたを守る」守備隊が置かれ、保護し、私たちの心と思いが完全な平安を保つために、盾が建てられるのです。

少し申し訳ないのですが、みなさんは分からないと思いますが、ときどき聖霊が…。これは言うのが嫌なのです…。どうか私がこれをする時、私を違う目で見ないでくださいね。ときどき、私がここに立ってノートを見ていると、聖霊がこう語るのです。「あなたにこれを語ってほしい」。私は、「主よ、それは私のノートには書いていませんよ」と（笑）。だから、これを分かち合う時に、私を違った目で見ないでくださいって言ったでしょう？

私は聖霊と奮闘しながら、「分かりました主よ、分かりました」「わたしはあなたに、金曜日に起こったことをシェアしてほしい」—「いいえ、できません！」—「詳細までは言わなくていい。ただ、少しだけでも…」私は金曜日の朝、目ざめて…、-主よ、いいですね？-ここにいるだれかのためかもしれませんね。ところで私は、それが誰で、これは誰のためなのかは知りたくないのです。なぜなら、「あなたのせいだ！」となりますから。

私は金曜日の朝に起きて、ただ、こんな感じがしたのです。「おお、どうしようか…」私の思いは不安でいっぱい、私の心は混乱していて、心配していて、ですから私は「分かりました、主よ」と。私は、この状況を前にして、これに対処していて、これについて祈り、悩んでいて、「分かりました、主よ」と。

もしかしたら、かなり抽象的すぎて、みなさんの何人かは、「何を悩んでいたの？」と思っているでしょう。私の人生でいま悩んでいるのは、ちょっとした困難で、スキャンダラスなことなどではありません。私は自分自身を探し始め、起き上がって、まっすぐ祈りに行ったのです。神が私をそのように創られたのですが、私は祈る時に、歩かないといけないのです。そして、神に話します。そして神は、私に御言葉を通して語ります。

神が私の証人ですが、私が経験した平安は一瞬でした。それは私を非常に不安にさせ、私は主にこう言い始めたのです。「主よ。待ってください。私はまだ、心配をしなければならぬ気がしますが」と。そうしたら、主が「あなたはこれについてずっと教えていて、日曜日もこのことを教えるのに、あなたは何をしているのか？わたしは、わたしが約束したことをした。わたしは平和の神からの平安をあなたに与えた。あなたは何が問題なんだ？」

私たちが心配する時に、こういうことがありますよね？「私は仕事を失って、クビになって…。すごく心配で…」そしてあなたは祈り、神が平安を与え、そして仕事も与えられたのに、それでも、あなたはまだ心配をしている。「この仕事を失ったらどうしよう…」(笑) ああ、私ひとりではないみたいですね。

これが私たちの姿ではありませんか？神は私たちにこの平安を与えられます。そして、それはこんな感じなのです。「わたしがこれの面倒を見る。この状況を心配するな。心配するのをやめなさい。私がどうにかする」—「分かりました。心配するのをやめます」そうすると突然、平安で満たされるのです。

そしてそれから数分が経つと、私は考え始めます。「ちょっと待って…」「もしこうなったら…」主は、「おい！何をしているんだ?!」私は分からなくて、心配することに慣れていて、まるで私は心配しない時、異国にいるようで、何をすべきか分からないのです。私は心配することに慣れすぎているのです。ですから主は、「わたしがどうにかする。もっとはっきりと言えば、いま、”前もって”、あなたはわたしを讃え、わたしに感謝しなさい」

これが、神が私にくれた言葉です。もう一度言いますが、ここにいるだれかのための言葉かもしれませんね。「わたしはあなたに、わたしが紅海を分かつ前のこちら側でわたしを讃え、感謝をしてほしい」おお…、「わたしは紅海を分ける。しかし、わたしは紅海を渡る前のこちら側で、わたしを讃えてほしい」みなさん、わたしを信じてくださいね。私はこんなふうには感じませんでした。はじめ私はこんな感じで、すごくぎこちなくて、手探りで、口ごもりながら、「主よ…、あなたがしてくださることに…、かんしゃ…します…。してくださるんですよね?!あなたを、たたえます…。あなたが紅海を分けてくださるんですよね…?」

私が前もって主を賛美し、感謝し始めるそのときに、平安が私を覆い、私は穏やかさに満たされました。すべての私の不安、すべての恐れが、そして、いいですか？この問題は、午後までに解決されたのです。(拍手) そうです。(拍手) はい、私はシェアをしました。主よ。(笑)

ここからの問題は、私が用意した内容を話す十分な時間がないということですね。ついて来てくださいね。4つの”方法”です。一つめは、”捕まえる/catch”です。第2コリント10章4節から6節。パウロが言っていることを聞いてください。

私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で要塞をも破るほどに力のあるものです。(4節) 私たちは、さまざまの思弁と神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、(よく注意して聞いてくださ

い) すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ (5節)、また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する (とても強い言い方です) 用意ができています」 (第2コリント10章4節から6節)

パウロは何を言っているのか? 「初めにそれを捕まえて、中に入れるな」 私たちが健康的であるためには、私たちの身体に何を入れるのかを、とても気をつけなければいけません。ある人たちは、「ノン (ゼロ) カロリー飲料」を決して飲まず、また、ある種の食べ物は決して食べません。しかし、同時に私たちの思いに入るものは、なんでも許してしまうのです。パウロはこう言っています。「あなたは、それらの考えを捕まえて、点検し、精査した方がよい。そしてそれが神の言葉、キリストの言葉に従順で、一致したものかどうかを確かめる必要がある」

ですから、ある考えが来たときに、私はそれを捕まえます。それが私の心に恐れを作り出そうとしていると「そこで止まりなさい。あなたはここに入ることはできない。なぜなら、神の言葉 (聖書) は、”神は恐れをくれたのではなく、力と愛と慎みとの霊をくれた”と語っているから。だから私は、異常に恐れたり、くじけたりはしない。あなたが入ることのできる入り口はない」 心配を乗り越えるための4つの方法のひとつめは、「それらの考えが、私たちの思いという地に植えられて、芽を出し、苦い実をならす前に捕まえる」です。

つぎに、二つめの方法です。 ”新たにする/renew” これは重要です。ローマ12章2節。

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心 (思い) を ”新たにする” 事で、自分を変えていただきなさい (ローマ12章2節)

このように言わせてください。洗脳されていることから、あなたの脳を洗いなさい。その考えがあなたを捕らえる前に、あなたがそれを捕らえなさい。そして、あなたの思いを新たに、あなたの思いを掃除し、あなたの思いが洗脳される前に、あなたの思いを洗う。始めに言ったことより良くなりましたね。とにかく、ポイントは分かりますね。

それは新しい考え方なのです。「あれらのことを考えるな。代わりに、これらのことを考えなさい」そして、あなたがそれをするとき、あなたの思いは新しくなるのです。それは新しい考え方です。私たちがいる人々は、この、内蔵された考え方に凝り固まっていて、なにかが起ると即座に最悪な状況のシナリオを作り上げてしまう。突如として、私は胸に痛みを感じて、心臓発作を起こして死ぬのではないかと。私の生命保険は更新しているだろうか。私はどうすれば…。 「それは、ただの消化不良だ! 薬を飲めばいい! あなたは、何が問題なんだ?」

つまり、私たちはこう考えるのです。これは古い考え方なのです。みなさんに言いますが、私は、常に、自分で自分を捕らえないといけません。もちろん、私は勝利の道を歩んでいます。それは知っておいてください。でも、天国のこちら側で、この崩壊した肉体にいる限り、私の考え方のために、私は葛藤するのです。

三つめです。これは、また別の聖書箇所、神が私の人生の中で、何年ものあいだ、力強く使われた箇所です。マタイ6章で、有名な山上の説教です。19節から34節。イエスが言われたことの要点を伝えたいと思います。彼は、こう言っているのです。 ”心配への解決は、あなたが心配しているすべてのことを明け渡すことだ。”

こんなふうに言わせてください。持てば持つほど、心配は増える。だから、あなたが心配しているすべてのことを明け渡し、あなたがこの地上で持っている宝をすべて、天へ移す。なぜなら、あなたの宝があるところに、あなたの心もあるからです。そして、もしあなたがそうするならば、何が起こるかということ、何を食

べようか、何を着ようか、生活で基本的に必要なことを、あなたは心配しなくなるのです。なぜなら、天の父が、あなたの面倒をみるから。

私たちがイスラエルへ行くときには、いつでも山上の垂訓の丘へ行き、私は、いつもこの箇所から教えます。なぜなら、そこはとても美しく、ある季節は特に…。イエスが山腹にいて、ガリラヤ湖にいる様子が想像できるのです。彼が空を飛んでいる鳥を指さして、こう言っているのが想像できる。「あの鳥たちを見てごらん。彼らがおびえているように見えるかい？彼らが小屋を建てて、虫を詰め込んで、来月の家賃まで十分に貯め込んでいるように見えるかい？天のあなたの父が、彼らの面倒をみないだろうか？」はい、そうです。「じゃあ、ちょっと待って。あなたはあの鳥たちよりも、もっと価値のある者ではなかったか？」はい、そうです。私は神に似た者として創られたのです。

そして私は、イエスが山腹で美しく花が咲いているのを指さしているのが想像できるのです。「このユリをみてごらん。どれほど美しいか見えるだろう？ソロモンでさえ、この花のように美しく、立派に着飾らなかったのだ。この花たちも、今日は、ここに咲いていても、明日にはなくなるのだ。それでも、天のあなたの父は、こんなにも美しく着飾ってくださる。あなたはあの花よりももっと、価値のある者ではないのかい？」そうです。「じゃあ、何が問題なんだ？なのにどうして、あなたはあちらこちら走り回って、異邦人のように怯えているの？」「どうしよう、どうしよう、何を着よう…。これは先週着たし…」クローゼットを空けて、「着るものがない…！」冗談でしょ？

33節は、とても有名な箇所です。イエスが言われます。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものは”すべて”与えられます。(33節) だから… (34節です) あすのための心配は無用です。(私はここで止めてほしかったのですが、彼はそうではありませんでした。イエスはこう言いました) あすのことはあすが心配します。(マタイ6章33節から34節)

ここで、私のような人たちは心配し、彼が、「あすのことはあすが心配する」と言ってほしくなかったと思うのです。ということは、明日はもっとたくさんの心配すべき事があるということだから。これは、彼が言っていることではありません。

労苦はその日その日に十分あります。(マタイ6章34節)

言い換えると、「心配するな。わたしがやるから」

最後の、四つめの方法は”実行する / practice” ①捕まえる ②新たに作る ③明け渡す/移す ④実行する

パウロが今日の箇所の8節、9節で言っていることで、私はやられました。パウロは彼らに、私(パウロ)の真似をするようにと言っています。彼がこう言うのは、初めてではありません。「私はあなたたちに、私を見本として見てほしい。私から学び、受け、聞き、また見たことを、私はあなたに実行してほしい。なぜなら、神の平安が(7節) 平和の神から来るから(9節)」

言い換えると、彼らはパウロのことを、とても落ち着いていて、不安がなく、恐れがなく、恐れのない、大胆な人であると見ていたのです。彼がどんなことに直面していたのかを知っていますね？この男に、どんなことが起こっていたのかを見てください。彼のミニストリーで。もし、たくさんを経験し、不安でいっぱいになる理由のある人がいるとすれば、それは使徒パウロなのです。

彼は、こう言える人です。彼が何を言ったかという、**「私を見本として学びなさい。すべての真実なことを考えなさい」**ここが、敵が私を捕らえているところです。もう一度言いますが、私はかなり率直に話して、不快に感じないことを願いますが、これが、敵が私を捕らえているところなのです。私は敵の嘘を聞き、その嘘を信じ始める。そしてそのとき、聖霊が私に思い出させるのです。**「ちょっと待って。それは真理ではない。それは真理ではない。だから、あなたはそんなに恐れでいっぱいになっているんだ。あなたは真理ではない考えに耳を傾けている。それは素晴らしいことではない。それは正しいことではない」**それから私は、**「分かりました。主よ。それが真理です！あれは真理ではない！」**

言い直した方がよさそうですね。つまり、私が言いたいのは、私たちは考えを捕まえる必要があるということです。**「ちょっと待てよ。それは真理か？それは真理？」**もし真理でないなら、私は自分の時間を無駄にしない。だってそれは真理ではないから。

**「それは正しい？それは正しいことか？」**いや、間違っている。私はそんなことを考えて、自分の時間を無駄にしない。だって、それは正しいことではないから。これはどうですか？**「清くないこと」「汚れた思い」**これは、また別のトピックで、別の機会にしましょう。

ですから、私はすべての真実なこと、誉れあること、正しいこと、清いことを考え、何が真理で、誉れがあり、正しく清いことではないのかを考え、愛すべきこと、素晴らしいこと、立派なこと、優れていること、称賛に値すること、これが、私が考えるべきことなのです。あなたの思いが神にとどまり続けるとき、神はあなたを完全な平安で守られます。

祈りましょう。

天のお父さま、感謝します。主よ、聖霊がこのことを、次の段階まで連れて行ってくださるようにと祈ります。私たちの心、私たちの思い、私たちの人生の中で。主よ、あなただけができることです。なぜなら、聖霊がいなければ、私たちの人生のこの領域において、私たちが勝利していく希望はありません。

主よ、感謝します。

イエスの御名によって、アーメン。

---

「きょう、もし御声を聞かざらば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」（ヘブル4章7節）

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/> Calvary Chapel  
Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Satoshi Suzuki 2019.04.27